

埋没林展示 はぎ取り標本

この印象的な壁は、三瓶山の西にある草原地の実際の断面だ。この断面の幅は 8 メートル、高さは 10 メートルあり、多くの層を成し、過去 2 万年の三瓶山噴火の歴史が視覚的にわかる。

地層の分かれ目から、三瓶山の火山時期がはっきりと見てわかる。白っぽい層は火山活動期に空中に噴出された火山灰、土砂、軽石といった火山生成物と火砕性物質からできている。これらの物質は雨や風によって地上で積み固まるまでの間に広域へと運ばれていった。黒い地層は三瓶山が休火山であった時期を表わしており、土、葉、有機物が過去の火山堆積物の上に積み重なった。

この展示からは三瓶山の 10 万年の歴史のうち、1/5 未満しか垣間見ることはできない。活火山時の噴火が地形を形成したこのほんの少しの部分を見ることで、三瓶山のような火山が地域全体をいかに変えたかを思い描くことができる。